

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2025 年 9 月 11 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 共生システム理工学類・准教授

申 請 者 名

(学会発表助成の場合は参加者名)

高原 円

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>助成の区分 (該当するものに○)</p> | <p>○ 学会発表助成 ・ 学術出版助成 ・ 学術論文発表助成</p> |
| <p>研究活動名</p> | <p>World Sleep 2025</p> |
| <p>成 果 の 概 要</p> | <p>9/5-10 の日程でシンガポールのサンテック・シンガポール国際会議展示場において世界睡眠学術集会である World Sleep 2025 が開催され、当研究室の研究課題である統合失調症患者の睡眠覚醒リズム解析に関する研究発表を行った。今回は特に「地域在住の統合失調症患者の睡眠・覚醒パターンの探索的研究」というタイトルで、9/9 夕刻にポスター発表を行った。本研究の対象は、在宅看護を受けている 9 名 (28~52 歳) の個人であった。人口統計データ (年齢, 就業歴, 喫煙歴, スポーツ経験, 慢性便秘の有無) はインタビューにより収集し、主観的な睡眠の質としてピッツバーグ睡眠票 (PSQI) スコアを使用した。客観的な睡眠パラメーターとして、参加者の腰部に 7 日間連続して装着されたアクティグラフィ装置によりデータを収集し、24 時間リズムの評価としてカイ二乗ペリオドグラムを使用した。生活機能は、世界保健機関障害評価スケール (WHODAS) 2.0 を使用して評価した。睡眠の質と自己報告による生活機能スコアとの相関に有意傾向が示された。自己報告による総睡眠時間とアクティグラフ測定値を比較した結果、4 名で 1 時間以上の乖離が観察され、睡眠時間の誤認の可能性が示唆された。活動周期のピークが 24 時から 30 分以上ずれている者は 4 名いた。これらの結果は生活習慣と精神機能の改善のため、より良い睡眠習慣の促進が重要であることを強調している。今後も個人の主観的な評価と客観的データを比較評価することを継続し、研究を発展させていくことを目指す。</p> |